

ひと・まち広島未来づくりファンド **Hm²**

ふるふる

第20回(令和4年度)助成団体の活動成果について

	団体名	活動企画案内	助成金額
助成 団体 部門	ひゃくなん会	ひゃくなん会	3.7万円
	NPO法人BUKATSU	引きこもり予防(はざまの子供たちへの運動支援)	4.5万円
	妙聲寺ほのぼの寺子屋	子どもの健全育成とまちづくり	5万円
	特定非営利活動法人 ここ惚れわんわん	オンライン婚活を開催して成婚数の増加へ	4.5万円
	計 4団体		17.7万円
まち づくり 活動 発展 助成 部門	おがうち探検隊TEVENT	シェアハウス寺升 活動展開!	20万円
	宿題やつつけ隊	子どもの学習支援	23.7万円
	えほんとおそびのちいさな部屋	親子で楽しむ えほんとおそび	30万円
	みんなの家 光明 牛田	0才~120才まで誰でも参加できる絆の集まり 「みんなの家 光明 牛田」	25.2万円
	Romui	被爆ピアノと丸木位里	17万円
	くらりか広島	地域におけるプログラミング学習の活性化	38.9万円
	特定非営利活動法人 広島市要約筆記サークルおりづる	要約筆記ボランティア入門講座	20.4万円
	ひろしまブックスケープを活性化させる会	シェア型本屋「mina books」の企画・開設・運営	28.1万円
	特定非営利活動法人広島県手話通訳問題研究会	手話通訳の基本を学ぶ研修会	29.8万円
	明田フォトプロジェクト	明田弘司写真集制作と出版記念写真展開催	42.5万円
	団地の法面を彩る会	団地の法面を彩る会	10.8万円
計 11団体		286.4万円	
合計 15団体		304.1万円	

団体名 [ウヤク子ん会]

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公表しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①活動テーマ/名称	ウヤク子ん会
②実施期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) ウヤク子ん会
④内容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) <ul style="list-style-type: none"> - 実施方法 = オンライン (Zoom) - 会場 = T&L - 活動地域 = 広島市を中心とする無限定 - 対象者 = 無限定 <p>オンライン上で人生100年時代の難問の解決、諸問題の解決の方向を探る。オンラインとの関係に期待</p>
⑤今後の課題・展望	(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) <p>今後もオンラインを中心とした活動がオンラインの活性化に貢献する。具体的な問題解決に役立っている組織として「こころ」を支援する。</p> <p>オンラインの強みを生かし、さらに地域域の課題の解決に貢献する。</p>

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公表しますので、
個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①活動テーマ/名称	引きこもり予防（はざまの子供たちへの運動支援）
②実施期間	2022年 4月 1日 ～ 2023年 3月 31日
③実施主体	（主催、共催、後援、連携した機関・団体など） NPO法人BUKATSU
④内 容	<p>（実施方法、活動地域や会場、対象者など）</p> <p>広島市安佐南区緑井にある集会所で毎週水曜日（18:00～20:00）にストレッチ・筋トレ教室、隔週日曜日（10:00～12:00）に空手教室を開催した。参加者は小、中、高校生、一般を合わせて両教室で10名程度。私たちの活動は対人関係や日常生活に難しさを持つ子供たち（はざまも子供たち）の将来的な引きこもりを予防するため、運動や習い事を通してSST（ソーシャルスキルトレーニング）を提供できる場所を目指している。</p> <p>そして、私たちが提案するSSTとは5～10名程度の集団の中で身体を動かし、子供たちが安心して自由に発言することができ、支援者や利用者の枠を無くし、同じ仲間として一緒に学びあえる場所を目指している。</p> <p>今回の助成金でストレッチ・筋トレ教室ではトレーニング器具、空手教室ではミットなどを購入させていただき、私たちの活動内容も充実したものとなった。</p>
⑤今後の課題・展望	<p>（上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など）</p> <p>私たちの活動は現在小学校5年生以上を対象としている。なぜなら小学校高学年になると、低学年のころは親や本人でさえ気づけなかった周りとの違いが明確になる。それがきっかけで外出する機会が減ってしまう傾向があるためだ。そのため高学年になるにつれ子供たちの課題が明確になりアプローチを効果的に行うことができる。今後は、小学校低学年の家族を含めたアプローチの方法を見つけ出し、検討していくことが課題である。</p> <p>また、私たちの活動は対人関係や日常生活に難しさを持つ子供たちの特性を考慮し運営を行うことから少人数制であり、教室を増やすためには活動を理解し協力してくれる人を増やすことも課題である。</p> <p>私たちは活動を通して活動に関わる子供たちはもちろん全ての人に価値を生み出し、地域に根付いた継続的な活動となることを目標とし取り組んでいる。</p> <p>これらのことから、今後は定期的に地域の方々に対して活動内容や活動理念などを共有する情報発信を促進し、私たちの活動への理解及び協力を得られるようにすることを目指していく。</p>

団体名 [妙聲寺ほのぼの寺子屋]

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公表しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①活動テーマ/名称	子どもの健全育成とまちづくり
②実施期間	2022年 7月 1 日 ~ 2023年 3月 31日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 主催：妙聲寺ほのぼの寺子屋
④内 容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) 実施方法 <ul style="list-style-type: none"> ・週に一回(金曜日)の無料学習支援 ・宿題、百マス計算、計算トレーニング、漢字ドリル、個々に対応した手作りプリントなど。 ・暮らしに役立つ算数や理科などに興味を広げる工夫。(お菓子作り、植物を植えて成長観察) ・「皆勤賞や頑張ったで賞」を設定し、ささやかなプレゼントを用意し子どもの高揚感を高めている。 活動地域や会場 <ul style="list-style-type: none"> ・広島市西区南観音7丁目 南観音学区内 対象者 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校一年生から六年生
⑤今後の課題・展望	(上記の活動理解の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) 判明した課題 <ul style="list-style-type: none"> ・低学年では時計の読み方が理解出来ない子どもがいる(デジタル化) ・三、四年生でも かけ算の暗記が不十分である。 ・両親共に働いている家庭が多く子どもの居場所作りになっている。 ・学力的に低い子どもが多い(算数) 追加活動 <ul style="list-style-type: none"> ・英語の基礎ともなるローマ字を簡単な単語で学ばせたい(読み書き) ・異世代交流の場として併設して開催されている高齢者いきいき百歳体操には夏休中に子どもの参加があり地域密着した異世代交流を続けたい。

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公表しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①活動テーマ/名称	オンライン婚活を開催して成婚数の増加へ
②実施期間	R4年 4月 1日 ~ R5年 3月 31
③実施主体	<p>(主催、共催、後援、連携した機関・団体など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひろしま出会いサポートセンター ・ひろしま NPO センター
④内 容	<p>(実施方法、活動地域や会場、対象者など)</p> <p>コロナウイルス感染症の中で、いかに活動をしていくかという問題に無謀にも果敢に挑戦をしてきた。</p> <p>しかしイベントの需要はありますが、なかなかオンラインの企画は、周知されていない。その難題をこの一年で乗り越えてきたと思う。</p> <p>着実に成果は出ている。根拠として参加者の人数が増えていることにある。それが功を奏して現在、ZOOM の参加者が緩和処置後の婚活イベントに反映され参加されるという好循環なっている。</p> <p>活動地域は、広島市内にとどまらず県内、県外からも参加者が増えている。それは ZOOM 婚活、何より手軽に参加できるオンラインの良さからくるものである。</p> <p>今や広島は、住民が定着しないとわれ、流失される広島市民を成婚により流失を防ぐ一端を支えたいものである。</p>
⑤今後の課題・展望	<p>(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など)</p> <p>この一年間を通して自身に繋がったことをこれからは、この経験を生かして下記の予定をしている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ひとり親家庭の婚活 2) ミドル婚活 (50代~の婚活) 3) おとなの飲み会 4) 障がい者婚活 5) ZOOM婚活 6) 出張婚活 (市内から中間山地へ、瀬戸内から市内へ) 7) 国際婚活 (来日者を対象にした婚活) 8) 啓発運動と相談会 (婚活相談・支援) <p>一人でも多くの人に参加して貰える企画を考えて成婚に結びつけたい。</p>

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公表しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①活動テーマ/名称	シェアハウス寺升 活動展開！
②実施期間	2022年4月1日 ～2023年3月31日
③実施主体	(主催団体) おがうち探検隊 TEVENT
④内 容	<p>(実施方法、活動地域や会場、対象者など)</p> <p>【実施方法】 収益を確保するためには、寺升主催事業の展開や、寺升オリジナル製品開発などにより、自己資金を確保していく必要がある。今年は、都市部から足を運んでもらえるような体験プログラムの企画や、来ていただく価値のある小河内ならではの加工品開発に注力した。これらの体験プログラムや食品加工の実施は、地域の方々および応援して下さるの方々により展開し、広く協力者を募った。</p> <p>【活動地域や会場】 シェアハウス寺升および周囲の耕作放棄地、山林</p> <p>【対象者】 地域のお年寄り 地域・都市部のファミリー 小河内好きの都市部のみなさん</p> <p>実施体験プログラム ○しいたけ菌打ち (2月)、巣箱作り (3月) しょ！ ○収穫体験とおにぎり作り、麦茶も作る！ (7月) ○小河内川で遊ぼう！どんな生き物がいるかな？ (8月) ○芋ほりだ！ (10月) ○稲刈りしょ！ (10月) ○季節の 草木染め 藍 さくら たまねぎ びわで。季節の色を。(7月・12月)</p> <p>加工品開発 収穫体験とともに実施 ○ 梅加工品 (梅シロップドリンク販売、スイーツの提供) ○ ハーブ加工品 (アロマオイル、ハーブティ、ハーブ染めバッグ) ○ 柚子・柿加工品 (干し柿)</p>

<p>⑤実施効果</p>	<p>(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など)</p> <p>寺升が地域のコミュニティスペースとしての役割を果たすと同時に、コミュニティビジネスの拠点となり、経済活動の場として地域に貢献した。体験プログラムを実施するために、耕作放棄地を整備し、竹林を伐採し、川掃除を実施した。また加工品開発のために、耕作放棄地を利用し野菜やハーブの栽培を進めたことで、放棄地を再び農地として利用した。収穫物を使った食品加工は地域の皆さんに協力をお願いして、切干大根やハーブティなどの特産品を作った。食品加工所は地域のコミュニケーションの場としての役割も同時に果たしてきた。</p> <p>8回にわたる体験プログラムでは多くのリピーターに来ていただいた。喜んで頂くことで、里山整備の励みとなり、より整備を進めることができた。新年度もすでに多くの体験プログラムが計画されており、継続的な賑わいにつながっている。</p>
<p>⑥目的の達成状況</p>	<p>(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など)</p> <p>体験プログラムに関しては、初めての試みばかりで、実施に不安があったが、開催の結果多くのお客様が来られ、とても喜んで頂いた。さらなるアイデアなども頂き、2023年度はより深い体験をして頂くようなプログラムを用意する。同時に2022年度は、農作物の栽培に注力した結果、農業・収穫の人手不足に苦労した。スタッフに無理がかかることが無いように、作業の効率化とプログラムの企画内容の工夫を重ねたい。また、スタッフとしての仲間作りのためのイベント(森のお手入れ講座、ハーブの土作り講座など)も積極的に企画した。</p>
<p>⑦今後の課題・展望</p>	<p>(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など)</p> <p>お客様満足については予想以上に成功したが、準備や会場維持のためのスタッフが少ないため、実施事項が限られている。2022年度に計画した仲間作りのためのイベントを2023年は実際に開催することで、未永くスタッフとして寺升を支えてもらえるような人材を増やしていく。</p> <p>このような継続的な事業展開によって、寺升は田舎と都会をつなぎながら、持続可能な未来の里山を作るとともに、「農」「森」「手仕事」「豊かなストーリーのある食」などを身近に感じられるような、未来のライフスタイルを提案する。</p>

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公表しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①活動テーマ/名称	子どもの学習支援
②実施期間	2022年4月1日～2023年3月31日
③実施主体	<p>(主催、共催、後援、連携した機関・団体など)</p> <p>主催：宿題 やっつけ 隊 連携：五日市公民館、五日市中央公民館、皆賀公民館、佐伯区福祉センター 協力：五日市学区社協、五日市中央学区社協</p>
④内容	<p>(実施方法、活動地域や会場、対象者など)</p> <p>【実施方法】</p> <p>学習塾に通塾していない小学生を中心に2つの学習支援を実施している</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教室学習支援 <ul style="list-style-type: none"> ・ 公民館等の公共施設を借りて先生と子どもの対面形式 ・ 先生は全てボランティアで地域住民から構成 ・ 宿題だけでなく、自主勉強（算数・漢字）にも取りくませる ○ 自宅学習支援 <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもが自宅で学習するための通信教材を提供 ・ 当会オリジナル教材で内容は計算プリント。1～3年生用 <p>【活動日時と場所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教室学習支援 <ul style="list-style-type: none"> ・ 月曜日 15時～18時 皆賀公民館 ・ 金曜日 15時～18時 五日市中央公民館 ・ 木曜日 14時～16時 五日市公民館 ・ 土曜日 10時～11時 佐伯区福祉センター ○ 自宅学習支援 <ul style="list-style-type: none"> ・ 曜日、時間は指定なし。場所は各家庭で学習 <p>【対象者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども（小学生） 100名 ・ 先生（ボランティア） 20名

<p>⑤実施効果</p>	<p>(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など)</p> <p>今年度より自宅学習支援を取り入れたことで、新たな学習支援のスタイルを提供できた。それにより今後より多くの子どもを受け入れることが可能となった。</p> <p>また、子どもと保護者向けに2022年度のアンケート調査を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本会の満足度 88% ※集計数 100 ・子どもが勉強を好きになった 73% ・自宅学習時間の増加 53% ・テストの点数が上がった 63% ・授業が分かるようになった 63%
<p>⑥目的の達成状況</p>	<p>(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など)</p> <p>自宅学習支援はもう少し早い時期から実施する予定だったが初めての取り組み故、慎重に進めてしまい計画が遅れてしまったことに焦りを感じつつ苦勞したが、当初の目的を概ね達成できた。また、自宅学習支援は保護者の協力が必要不可欠なため、定期的に連絡して情報共有と子どもの進捗管理の把握に慣れるまで大変だった。</p>
<p>⑦今後の課題・展望</p>	<p>(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など)</p> <p>自宅学習支援で提供している計算プリントは現在1~3年生までの範囲だが、4年生以降のプリントも欲しいという保護者のニーズがあり応えていきたい。</p> <p>また、自宅学習支援は思った以上に参加希望者が多く現在受け入れを待っている子どももあり、驚きと共に広く展開していく必要があると感じた。</p> <p>教育格差の解消、かつ活動を継続させていくために行政の委託や寄付を得られるよう広くPRして参りたい。</p>

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公表しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①活動テーマ/名称	親子で楽しむ えほんとあそび
②実施期間	2022年 4月 14日 ~ 2023年 3月 23日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) えほんとあそびのちいさな部屋
④内容	(実施方法、活動地域や会場、対象者など) <えほんとあそび> 実施方法:オフライン(各会場月1回) 対象者:7か月~4歳の未就園及び就園の親子 活動会場:Kids Garden Tree(広島市佐伯区五日市) 12回 延べ42組 江波っ子ハウス(広島市中区江波) 12回 延べ31組 みんなのあいプラザ(廿日市市) 12回 延べ40組 活動内容:玩具遊び(木製玩具を中心に) ふれあい遊び 集団遊び 絵本の読み聞かせ(ぞうくんのさんぽ・こいのぼりくんのさんぽ とべたよとべたよ・ほっほっほたる こぐまちゃんのみずあそび・ころころころ はらぺこあおむし・おつきさまこんばんは くだものさん・さんかくサンタ・くだもの) 遊び(こいのぼり飾りづくり・バルーン・つばめさんモバイルづくり シーツ滑り・雨音タンバリンづくり・プチ音楽会・どっぼんう ちわづくり・どっぼんあそび・小麦粉粘土・ボーリング・ペタ ペタさんぽボードづくり・まんまるお月さま飾りづくり・おは ながみの感覚あそび・リンリンりんごづくり・木の実いっぱい のクリスマスキャンドルづくり・コンテの色あそび・いちご摘み あそび・ムシャムシャBOXづくり) <ワークショップ> 実施方法:オフライン 対象者:2歳~大人 活動会場:CLiP HIROSHIMA(2022.11.26) まちの駅 ADOA 大野(2022.12.3) 活動内容:自然物を使ったクリスマスリースづくり 絵本の読み聞かせ(はらぺこあおむし・さんかくサンタ コロちゃんのクリスマス)

<p>⑤実施効果</p>	<p>(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など)</p> <p><成果・効果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの様子をスタッフや他の保護者と一緒に見守り楽しさを共感でき、安心感や一体感が持てた。遊びを家でも繰り返し楽しむことができ、また活動写真を提供することで振り返りや家族で共有できた。母だけでなく、父、祖父母、叔母も一緒に活動に参加する機会が増え、子育てを楽しんだり、子どもの成長を共有したりする場となった。 ・3会場共通で、継続利用する親子が増え、親子で次の見通しを持って活動に向かえた。保護者同士も顔馴染みになり、お互いの子どもの姿や成長を喜べる仲間になり、教室後に色々な情報交換をされ、スタッフも一緒に教室後にランチ忘年会をする会場もあり親睦を深めることができた。 ・親子で安心して過ごせる居場所の提供が出来てきている。 <p><対象者等の反響(アンケートを実施)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回楽しい活動を用意してもらい、子どもの成長を一緒に見守り喜んでもらって嬉しい。 ・少人数であたたかい雰囲気の中で色々な経験ができる。目の行き届いた環境で、親子共に惹きつけられる内容。 ・保育園に通ってないので、集団遊びの経験や家庭で出来ないことをさせてもらえる。 ・支援センターでチラシを見つけ、参加したことのあるお母さんから「とても良いよ」と勧められた。勧められた通り楽しい時間を過ごせた。 ・子どもの大好きな身近な絵本なので、家でも親子で一緒に絵本を見たり、制作も楽しく出来て記念になる。これからも楽しみにしている。 ・回数を増やして欲しい(2回~4回)。 ・子どもの成長を感じさせてもらえるし、子どもが楽しんでいるので親としても嬉しい。 ・下の子の出産後も楽しみに通わせてもらおう予定。
<p>⑥目的の達成状況</p>	<p>(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など)</p> <p><目的の達成度> 70%</p> <p><成功点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・スケジュール通りに活動することが出来た。 ・継続利用の親子が増え、保護者同士の繋がりが深まり、また居場所づくりの役割を担うことができた。 ・父、祖父母、叔母と家族で参加してもらう機会が増えた。子どもの姿や成長を共有し、共に育児を楽しむきっかけを作れたように思う。 <p><工夫点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動内容に対し、事前に参加児の行動や反応のシミュレーションをし、スタッフが共通認識して対応したことで、親子が安心して活動に参加できていた。 ・少人数制であるので、それぞれの親子の様子を把握し、保護者に寄り添いながら丁寧に声掛けを行ったことで、保護者からも目が行き届いていると認識してもらうことができた。 ・活動写真をこちらから提供することで、保護者がスマホを持たず活動に集中してもらうことが出来た。「なかなか一緒に写真に写る機会もないので嬉しい」との意見ももらえた。 <p><失敗点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・スタッフが仕事との両立の中での運営で、地域との繋がりを積極的に作るが出来なかった。 ・開催場所の選定の難しさがあった。
<p>⑦今後の課題・展望</p>	<p>(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集団が苦手だったり場所見知りがあったり泣いてしまう子どもさんや「チョロチョロするけど大丈夫ですか?」と、我が子が教室に参加できるか心配や不安を感じるお母さんや、転勤等で知り合いがいないお母さんが案外多く、『子どもとお母さん』『お母さんと他のお母さん』を繋ぐ仲介者が必要であることを感じた。子どもの発達過程を遊びや友だちとの関わりの中で伝え、不安や心配を軽減していくこと、お母さん同士の仲間づくりを広げていくことを引き続き大切にしていきたい。 ・少しずつ当団体の活動を認知してもらえている。事業目的をスタッフと再確認し、来年度も丁寧に取り組みを継続していきたい。 ・来年度は、0歳児からの集いの場やリズム遊びの教室等の活動も取り入れていきたい。

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公表しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①活動テーマ/名称	0才～120才まで誰でも参加できる絆の集まりみんなの家光明牛田
②実施期間	令和4年4月1日～令和5年3月6日
③実施主体	<p>(主催、共催、後援、連携した機関・団体など)</p> <p>連携した機関 市役所国際化推進課・牛田社協お助け隊・広島光明学園みんなの家光明牛田・オープンスペースわくわくランド</p>
④内容	<p>(実施方法、活動地域や会場、対象者など)</p> <p>4月季節の野菜や花を植える0名 育児介護相談室利用者0名 5月ジャガイモみかん玉ねぎ収穫19名 育児介護相談室利用者12名 6月サツマイモ植え夏野菜収穫花観察21名 育児介護相談室利用者22名 7月夏祭り、スイカ割り、夏野菜トマトキュウリナスゴーヤ収穫27名 育児介護40名 8月秋ジャガイモ植え、夏野菜収穫、ジャガイモ収穫、陶芸教室、 ウクライナ支援ビーツジャガイモ用の畑を耕す作業牛田の小学生中学生高校生参加19名 育児介護相談6名 9月ウクライナ支援ビーツジャガイモを植える、 看護師によるフラワーアレンジメントセラピー 広島光明学園園児、牛田小中学生16名 10月白菜を植えようサツマイモ収穫看護師による自分でつくろう元気になるアロマセラピー26名 11月ウクライナの方に思い出の味を届けよう秋じゃが、サツマイモ収穫14名 育児介護相談室利用者12名 12月ウクライナの方からのお礼交流会看護師によるクリスマスアロマセラピー33名 育児介護相談15名 1月ウクライナ支援ビーツ、インカのみぎめジャガイモ収穫・金柑・赤かぶ大根収穫・ 看護師による元気になるアロマセラピー17名・育児介護相談室利用者11名 2月牛田双子三つ子ちゃん多胎児みんな集まれ会13名 育児介護相談室利用者9名 3月 じゃがいもを植えよう、春の畑の観察、セラピー犬との触れ合い11名 育児介護相談室利用者7名</p>

<p>⑤実施効果</p>	<p>(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。) 現在計画中の活動は、期待される効果など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めて育児休暇を取得されたお父さんが増え親子で参加される姿が見られるようになりました。 ・多胎児や障がい、病気(病院やカウンセリングなど通院)登校拒否などの悩みを抱えて生活されている子ども達や保護者の方々から「無料で気兼ねなく行けるあそび場や休む場所がないので助かりました。」「心が軽くなりました。」「また参加したい。」など笑顔が見られるようになりました。そして、子どもや共通の悩みを持つ保護者同士の繋がりも見られ、いろいろな地域支援サービスを紹介し合う姿など見られました。 ・畑のイベントやセラピーを通して高齢者交流や地域の方と顔なじみの関係づくりができ、いざという時助け合う事ができる関係作り、防災にも繋がったと思いました。
<p>⑥目的の達成状況</p>	<p>(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月曜日～日曜日14時～16時まで畑やみんなの家を開放して誰でも気軽に玩具や菜園で遊んだり育児介護相談などできるようにしていました。(他にも毎月看護師、保育士介護士によるイベントやアロマセラピーを行っています)しかし、コロナの影響もあり参加人数やボランティアを地域の要望もあり少人数でのイベント開催の要望が途中から指摘され思うようにできない状態が続きました。良かった点は、活動していく中で牛田の地域の子供達だけでなく保護者同士の輪が広がり、市役所、地域の社協や子どもや保護者の方、保育園と協力して広島での生活を余儀なくしているウクライナの方への支援が出来た事です。「思い出の味ピーツ野菜を届ける活動など」他には、セラピー犬との触れ合いも人気で親子とも心が穏やかになってリフレッシュされてました。
<p>⑦今後の課題・展望</p>	<p>(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など)</p> <p>令和5年4月からは、市役所の子育て支援課と協力して頂き「オープンスペースの配慮がある家庭支援活動スマイル」として、対象者を多胎児や障がいなど気になる家庭の支援をしていきたいと思えます。</p> <p>子どもと高齢者の交流会、障がいや病気などを抱えて生活をしている家族の居場所作り、いざという時助け合える顔なじみの関係作り(防災など)を市役所・東区役所などの子育て支援センターなどの協力や指導の中実施し、継続していきたいと思えます。</p> <p>名称「オープンスペースわくわくランド光明・配慮が必要な家庭支援スマイル」です。よろしくお願いたします。</p> <p>1年間ご支援頂きありがとうございました。</p>

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公表しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①活動テーマ/名称	被爆ピアノと丸木位里
②実施期間	令和4年6月1日～令和5年3月31日
③実施主体	<p>(主催、共催、後援、連携した機関・団体など)</p> <p>Romui プラットホーム安芸飯室運営委員会 広島大学教育学部造形芸術系コース学生有志 地域元気応援プロジェクト</p>
④内容	<p>(実施方法、活動地域や会場、対象者など)</p> <p>丸木位里の生誕の地である安佐町で、平和を願うイベントを平成30年から毎年開催している。今年度の取り組みは被爆ピアノをレンタルし、小学生から社会人に演奏してもらい、音楽の力で平和の尊さを考える取り組みをした。清和中学校の音楽の先生にも依頼した事で、中学生たちが集まった。</p> <p>丸木美術館（埼玉県東松山市）からレプリカをレンタルし、原寸大軸装、縦1.8メートル、横7.2メートルの『幽霊』を駅舎に展示。</p> <p>その他、大パネル『母子像』、『焼津』2点をレンタルし展示した。</p> <p>大きな展示物を設置する際には、地元住民の協力があり、実行できた。</p> <p>又、被爆ピアノの搬送に関しても周りの理解と協力があったからこそ実現可能になった。</p> <p>8/1 認知症予防カフェとして音楽イベント 8/2 小学生のピアノ演奏 8/3 紙芝居村のパフォーマンス「袋町物語」 8/4 被爆体験談 8/5 被爆体験講話・コーラスとピアノ演奏 8/6 広島大学教育学部造形芸術系コース学生有志によるアートイベント 8/7 被爆ピアノとアンサンブル</p> <p>広島大学教育学部造形芸術系コース学生有志と Romui の仲間で、飯室出身の画家たち丸木位里をはじめとし佐々木邦彦、中谷みゆき、大道あや、丸木スマの作品の調査し、大学生と先生が小冊子にまとめた。</p> <p>安佐公民館で11月20日、大学生による発表会を開いた。</p> <p>(永井学芸員さんの体調不良により、講演会は5/6に延期)</p>

<p>⑤実施効果</p>	<p>(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など)</p> <p>安佐町から同時期に活躍していた画家が存在していた事は誇れるし、地元の宝であると認識でき、広大生による水墨画のワークショップも好評だった。</p> <p>被爆ピアノに触れる事で、戦争体験がない世代でも平和が如何に大切であるかを感じ、後世に伝えられた。</p> <p>又、8月7日、斉藤国土交通大臣が立ち寄られ、被爆ピアノのアンサンブルの演奏を聴いてくださったのは励みになった。</p>
<p>⑥目的の達成状況</p>	<p>(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など)</p> <p>確実に平和発信している事が、広まっている。来場者が増え、安佐町の魅力を伝えられた。廃駅の活用方法を視察に県外から来られるなど、注目されてきた。</p> <p>継続して駅舎を利用している事で、駅舎の改修工事ができ、益々、地域の要になっている。</p> <p>残念なことは、被爆ピアノを演奏する子供を多く集められなかった。</p> <p>8/7はあまりにも多くの人に来て上手く、対応出来なかった。</p>
<p>⑦今後の課題・展望</p>	<p>(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など)</p> <p>コロナ禍で、多くの人を集めるのに躊躇したが、野外を上手く利用し、魅力ある企画を考えたい。</p> <p>例えば、廃線の活用を鉄道ファンなども交えて取り組む。加計⇄飯室でスタンプラリーをするなど、面白いアイデアを募りたい。</p> <p>中山間地域は人口の減少が著しいので、若い世代に発信していきたい。</p>

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公表しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①活動テーマ/名称	「地域におけるプログラミング学習の活性化」
②実施期間	2022年9月17日 ～ 2023年2月26日
③実施主体	<p>(主催、共催、後援、連携した機関・団体など)</p> <p>主催：くらりか広島</p> <p>連携：蔵前工業会（東京工業大学同窓会）</p>
④内容	<p>(実施方法、活動地域や会場、対象者など)</p> <p>1. プログラミング入門教室 (対象：プログラミングの経験がない児童と保護者)</p> <p>内容：タブレット(iPad)を使ってスクラッチという言語でプログラムの基本を学ぶ</p> <p>活動場所：二葉公民館、大塚公民館、安公民館、中野公民館、青崎公民館、船越公民館、春日野集会所</p> <p>参加者数：児童 53 名、保護者 45 名</p> <p>2. ゲーム初級プログラミング教室 (対象：プログラミング入門参加児童と保護者)</p> <p>内容：ゲームを作る手順やゲームでよく使うプログラムの方法を学ぶ</p> <p>活動場所：二葉公民館、大塚公民館、船越公民館、春日野集会所</p> <p>参加者数：児童 28 名、保護者 26 名</p> <p>3. ゲーム応用プログラミング教室 (対象：ゲーム初級教室参加児童と保護者)</p> <p>内容：今まで習ったことを使って各児童が好きなゲームを自由に作る</p> <p>活動場所：二葉公民館、船越公民館、春日野集会所</p> <p>参加者数：児童 18 名、保護者 17 名</p> <p>4. プログラミング発表会 (対象：発表や見学を希望する児童と保護者)</p> <p>内容：自分が作ったゲームを発表した。また人が作ったゲームを見学した。</p> <p>活動場所：東区民文化センター</p> <p>参加者数：児童 19 名、保護者 31 名</p>

<p>⑤実施効果</p>	<p>(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など)</p> <p>教室と発表会を含めて延べ 237 名の児童と保護者に参加していただき、プログラミング学習に対する関心を高めることができた。これについては入門教室に参加した児童の約半分がステップアップのゲーム初級教室に参加していることから確認できる。更に継続してゲーム応用教室、プログラミング発表会にも参加いただいている。</p> <p>また春日野集会所では町内会の回覧板でプログラミング教室の案内チラシを回覧してくれるなど、地域コミュニティ作りのきっかけとなりつつある。</p>
<p>⑥目的の達成状況</p>	<p>(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など)</p> <p>【成功した点】</p> <p>操作が簡単で、しかもほとんどの小学生が学校で使ったことがある iPad を使った教室にすることでプログラミング学習に取り組みやすいようにした。また親子で参加することで家庭に帰ってからもプログラミングについて共通の話題ができ、プログラミング学習が家庭で継続するきっかけにすることができた。</p> <p>【失敗した点】</p> <p>チラシを使って教室募集を行ったため、周知される範囲が限定的であり、広い範囲の人に周知することができなかった。</p>
<p>⑦今後の課題・展望</p>	<p>(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など)</p> <p>1. 使用機器について</p> <p>iPad は児童にとって馴染みがあり使いやすいが、学校の iPad を家庭に持ち帰れない児童も多いことなどから、継続的に家庭で iPad を使ってプログラミング学習をするには制約がある。ある程度プログラミングに慣れたら、多くの家庭にあるパソコンを使った学習をする方が望ましい。また画像の操作などは指で操作するよりマウスで操作する方が簡単である。このような課題を踏まえて、今後はパソコンを使ったプログラミング教室も開催したいと考えている。</p> <p>2. 地域コミュニティに根付いたプログラミング教室の必要性</p> <p>今回は単発的にプログラミング入門、ゲーム初級、ゲーム応用と 3 つ教室を開催したが、地域コミュニティにプログラミング学習の場を根付かせるためには同じ開催場所で継続的に教室を開催してその地域の人を巻き込む必要があると感じている。今後は、月 1 回程度で定期的にプログラミング教室を開催したいと考えている。</p>

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公表しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①活動テーマ/名称	「要約筆記ボランティア入門講座」
②実施期間	令和4年5月20日 ～ 令和5年3月18日
③実施主体	<p>(主催、共催、後援、連携した機関・団体など)</p> <p>主催 特定非営利活動法人広島市要約筆記サークルおりづる 共催 広島市安芸区社会福祉協議会 広島市佐伯区社会福祉協議会 広島市安佐北区社会福祉協議会 広島市西区社会福祉協議会 広島市中区社会福祉協議会 協力 広島市中途失聴・難聴者協会 NPO法人広島県難聴者・中途失聴者支援協会</p>
④内容	<p>(実施方法、活動地域や会場、対象者など)</p> <p>1、安芸区要約筆記ボランティア入門講座 場所 広島市安芸区総合福祉センターなど 1日目 令和4年5月20日(金) 体験発表「要約筆記を始めたきっかけ・経験」 聴こえない体験「聞こえない」ってどんなこと？ 講義「聴覚障害の理解」「要約筆記とは・三原則」 実習「とにかく書いてみよう」(読みやすく) 2日目 令和4年5月27日(金) 屋外学習「ノートテイク」 千葉家&織田幹雄記念館「西国街道 海田市ガイドの会」の案内 3日目 令和4年6月3日(金) 総合学習「基本的な要約技術」(速く) 「交流会」</p> <p>2、佐伯区要約筆記ボランティア講座 場所 広島市佐伯区地域福祉センター 1日目 令和4年10月4日(火) 寸劇「電車の中での出来事」 「難聴者の困りごと」 講義「要約筆記って何？」 体験発表「要約筆記を体験して」実習「とにかく書いてみよう①」 2日目 令和4年10月11日(火) 難聴者の困りごと② 実習「とにかく書いてみよう②」 体験発表「要約筆記を体験して」講義「ノートテイクとは」 実習 昔話 ノートテイク実習 3日目 令和4年10月18日(火) 社協「振り返りと佐助について」 交流会「ノートテイク実習 クイズなど」</p> <p>3、安佐北区要約筆記ボランティア入門講座 広島市安佐北区総合福祉センター 1日目 令和4年11月24日(木) 講義「要約筆記について」 体験発表「中途失聴・難聴とは(体験発表も含む)」 実習「要約筆記の技術(要約筆記の三原則)」 2日目 令和4年12月1日(木) 体験発表「難聴者の生活」 寸劇 聞こえないことで困ること 実習「書いて伝えてみよう」 3日目 令和4年12月8日(木) 実習「ノートテイク」 社協「ボランティアとは」 交流会</p>

	<p>4、パソコン要約筆記ボランティア入門講座 場所 広島市西区地域福祉センター</p> <p>1日目 令和5年1月21日(土) 「難聴者と要約筆記のかかわりについて」 「パソコン要約筆記とは」</p> <p>2日目 令和5年1月28日(土) 「I Ptalkのインストール」 「使ってみるI」 「使ってみるII」</p> <p>3日目 令和5年2月4日(土) 「いろいろな方法で伝える」 「いろいろな要約筆記」</p> <p>5、中区要約筆記ボランティア入門講座 広島市中区地域福祉センター</p> <p>1日目 令和4年2月26日(土) 体験発表 「難聴者になって」 講義 「要約筆記とは」 実習 「書いてみよう」</p> <p>2日目 令和4年3月1日(火) 講義 「要約筆記の三原則」 実習 「OHCを体験してみよう」</p> <p>3日目 令和4年3月5日(土) 講義・実習 「ノートテイクとは」 体験発表 「要約筆記との出会い」</p>
--	--

<p>⑤実施効果</p>	<p>(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など)</p> <p>コロナ禍も少し落ち着いて来て、講座がたくさん開催できた。参加申し込み者も昨年に比べると増えておりづるに数名入会された。令和5年度の広島市要約筆記者養成講座への申込みも促せた。</p>
<p>⑥目的の達成状況</p>	<p>(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など)</p> <p>コロナ禍が落ち着いてきても、マスク装着や手指消毒など感染防止対策をした。どの支部も感染者を出すこともなく無事に講座が終了できてよかった。</p> <p>入会者は昨年より増えた。</p> <p>けれど人材不足はなかなか解消されないので継続してボランティア講座で要約筆記を身近に感じてほしい。</p>
<p>⑦今後の課題・展望</p>	<p>(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など)</p> <p>コロナ感染予防対策をしながら講座を開催することに不安を感じていた。</p> <p>昨年のように部屋が借りられなくなるのではと不安があり、予定がなかなか立てられず進めていた。</p> <p>おりづる会員や広島市中途失聴・難聴者協会の会員と詳細を詰めていくことが難しかった。</p> <p>会員の高齢化も進んでおり、若い年齢層に参加してほしい。</p> <p>ズーム会議などスムーズに開催できるようになることも必要。</p> <p>もっと広く広島市民に要約筆記のことを知ってほしい。</p>

団体名 [ひろしまブックスケープを活性化させる会]

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公表しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①活動テーマ/名称	シェア型本屋「mina books」の企画・開設・運営
②実施期間	2022年2月23日～2023年3月31日※ ※その後も継続的に活動予定
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 主催:ひろしまブックスケープを活性化させる会 連携:minagarten
④内容	<p>(実施方法、活動地域や会場、対象者など)</p> <p>1)mina book festival 令和4年2月23日(水・祝) 10-20時(2/22 前夜祭) シェア型書店mina booksの常設にむけたテスト。 テーマは「本を通じて、人と繋がり、人生が動き出す」 本屋さん、読書会、絵本、珈琲・カレー出店などが集まったブックイベント。市内にある6店の個性派の本屋さんが集結し、5つのワークショップに2つのトークショーを実施した。</p> <p>2)郷土史本の編集 令和5年中の発刊を目指して、「広島歴史と今」を「高品質なクリエイティブで未来に伝える」郷土本の編集を行い国内外に発信していく。取り掛かりとして、第一弾「五日市編」の編集に着手している。(チームメンバーを募り、編集会議を3回ほど実施)</p> <p>3)選書付きレジデンスの開業 アーティスト的な生き方をしたい人に向けた選書付き・長期滞在型レジデンス(工事完了・試験的に運営中) mina books 出店メンバーによる選書を実施予定。</p> <p>4)シェア型書店「mina books」一部開業 ・令和4年12月17日、シェア運営型の本屋を常設で一部開店。広島市内の個人書店数店の分館設置に加えて、誰でもブースを構えて小さな本屋を開店できる「ブックマンション型」を採用。当日はオープニングイベントを実施し、ブックマンションの仕組みの説明、トークイベントを実施した。 ・現在、店舗拡充、運転資金確保に向けたクラウドファンディング実施準備(チラシ作成済)を行っている。 ・吉祥寺ブックマンションを運営する中西功さんからヒアリングを行い、運営マニュアルの作成を行った。</p> <p>【参加書店(2023年3月末時点)】 ①READAN DEAT：本川町にあるこだわりのセレクト新刊書店 ②本と自由：横川にある広島を代表する古本屋 ③ミツバチ文庫：近隣小学校で18年間読み聞かせを続ける主婦層が共同出資で運営する ④nice nonsense books：南観音にあるこだわりの古本屋 ⑤本の教室ルーペ：サイエンス読書会、自分を支える言葉に出会えるワークショップ等実施</p> <p>5)開業後その他イベント(一部抜粋) ・3/14 凡夜 READING CLUB × 発酵シュビドゥ Bar 開業後初の、書店主×歌手×発酵食のトーク・ライブ。30名ほどが集まり、交流を行った。 ・2/11 mina books 棚主追加記念トークイベント 棚主を紹介しながら、本の面白さを語るイベント。たまたまカフェスペースに居合わせた人もトークに興味を持ち本を購入した。 ・2/11 サイエンス読書会 7名参加。このワークショップがきっかけで、いままで馴染みがなかったサイエンス本(科学系書籍)に興味を持つ人がふえた。参加は、中学生から60代の方までと年齢層が幅広く、本を介した多世代交流の場にもなった。 ・3/31 踊る読書会キャラバン 20名ほど参加。北海道在住の読書会ファシリテーターくっを招き、様々な読書法を体験するイベント。</p>

<p>⑤実施効果</p>	<p>(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープニングイベントでは、開店から閉店まで人が途切れることなく、広島に多くの本好きがいることを確認できた。(推定入場者数400人)現状、新刊書店が広島都心部なくなっているが、需要がないわけではなく、どのように供給するか(魅力的に見せていくか)が肝要であることが分かった。 ・活動を続けるごとに、様々なコミュニティから人が集まり、コラボレーション活動が起こり、本屋、本好きコミュニティのひとつのハブが形成されてきている。 ・それぞれの棚主が、友人や知人をmina booksへ誘うために、新たな出会いが連鎖的に起こり、広島市全体の本を通じたコミュニティが拡張されている ・訪れた人はブックマンション形式の新しさに驚く人が多く、なかには、こんなコミュニティが近所にもあったら嬉しいと、地元で新たな拠点づくりを始める人も現れた。
<p>⑥ 目的の達成状況</p>	<p>(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など)</p> <p>■達成度合い 当初の目的、シェア型本屋「mina books」の企画・開設・運営という面では達成できた。一方で、棚の借主を完全に埋める。より多くの人に使ってもらうという点では、十分には達成できていない。</p> <p>■工夫した点 ・プロジェクトの初期段階で大きなイベントを実施し、本が好きな人、本に纏わる活動をした人がどのくらいいるのか、テストマーケティングを実施したことにより、活動に向けての肌感覚を得られた。また、今後一緒に活動を行っていくキープレイヤーの掘り起こしができた。</p> <p>・今回のような取り組みを横展開する際には、同じような活動を行っているプロジェクトとの連携が不可欠であり、本屋通りプロジェクト(T-SITE 広島)、BOOK PARK CLUB (広島PARCO) 等と情報交換、連携などを既に実施している。</p> <p>・本会やmina books が活動の主語となるのではなく、活動の主語はあくまで、mina books に関わるグループやお店、個人ということを意識し、彼ら彼女たちが活動しやすい土壌、生態系をつくることに徹している。例をあげると、こどもたちへの絵本の読みかせを18年行ってきたみつばち文庫さんが、実店舗を持つことで、より本を紹介、届けやすくなったという声をいただいた。また、コミュニティもより活性化された。</p> <p>・新刊の仕入れが難しなか、既存のブックマンション形式を実施している先行事例や、広島市内の本屋さんから仕入れ方法のヒアリングを行い、最善策は何か模索しながら、実装に落とし込んでいった。</p>
<p>⑦ 今後の課題・展望</p>	<p>(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など)</p> <p>■課題 ・それぞれに本業がある中、急速なスピードで物事を進めていくのは難しく、企画費の支払い等も限られたため、ゆったりとした歩みとなった。</p> <p>・新刊書籍の仕入れは独特の商慣習があり、仕入れのハードルが高かった。</p> <p>■展望 ・まず、全面開業にあたり、棚の借主の定員がオーバーになることを目指す</p> <p>・このモデルがある程度軌道に乗った際には、mina books に留まらず、広島市内の様々な場所で展開し、実施していく。そうすることで、広島のみならず、近隣のまちにブックスケープが拡がり、まちに人が滞在できる場所が増え、人々が出会うきっかけになると考えている。</p> <p>・既に一部起こっているが、広島市内のいくつかの拠点が、発信や表現の拠点として、棚を借りることで、相互連携を図ることができると考えている</p> <p>(シメント広島に開店したマザーハウスが棚を持つことを検討中)</p> <p>・今後、全国に広がるブックマンション形式の拠点との連携、市内で新たにブックマンション形式を導入したい拠点の支援的な動きができればと考える</p>

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公表しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①活動テーマ/名称	手話通訳の基本を学ぶ研修会
②実施期間	2022年 6月 1日 ～ 2023年 3月 31日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 主催 特定非営利活動法人 広島県手話通訳問題研究会
④内 容	<p>(実施方法、活動地域や会場、対象者など)</p> <p>①平和と手話通訳を考える集い 2022年7月30日(土) 集合型研修 会場：広島平和記念資料館 東館地下1階会議室(1) 対象地域：広島県 対象者：平和や被爆証言、手話に関心がある人</p> <p>②原爆の紙芝居手話語り 2022年8月27日(土) 集合型研修 会場：東区地域福祉センター ボランティア研修室 対象地域：広島県 対象者：平和や被爆証言、手話に関心がある人</p> <p>③ろう者を講師に迎え、ろう者に伝わる手話の基本を学ぶ 会場：福山市市民参画センター 対象地域：広島県 対象者：手話学習者</p> <p>④理学療法士を講師に迎え、手話通訳の姿勢や体幹の鍛え方等を学ぶ 集合型研修・後日 YouTube 配信 2022年12月10日(土) 会場：東区地域福祉センター 大会議室 対象地域：広島県 対象者：手話に関心がある人</p> <p>⑤手話通訳者研修会 読み取り学習 集合型研修・ZOOM 2023年1月14日(土) 会場：東区地域福祉センター ボランティア研修室 2023年1月15日(日) 会場：東区民文化センター 音楽室 対象地域：広島県 対象者：手話通訳者をめざす人、手話通訳者</p> <p>⑥1級ラジオ体操指導士を講師に迎え、正しいラジオ体操を学ぶ 集合型研修・後日 YouTube 配信 2023年2月11日(土・祝) 会場：東区地域福祉センター 大会議室 対象地域：広島県 対象者：一般</p> <p>⑦当法人作成の誌上学習会動画を使用した読み取り学習会 集合型研修 2023年2月11日(土・祝) 会場：東区地域福祉センター 大会議室 対象地域：広島県 対象者：手話学習者</p> <p>⑧断捨離トレーナーを講師に迎え、断捨離を学ぶ 集合型研修・ZOOM 2023年3月4日(土) 会場：東区地域福祉センター ボランティア研修室 対象地域：広島県 対象者：一般</p> <p>⑨手話通訳者研修会 手話通訳実習 断捨離の研修会と同時開催 2023年3月4日(土) 会場：東区地域福祉センター ボランティア研修室 対象地域：広島県 対象者：手話通訳者(講演会の通訳経験が少ない人)</p>

<p>⑤実施効果</p>	<p>(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など)</p> <p>①② 広島に生きる者として、平和や被爆体験伝承に関わる活動は継続的にしていく必要がある。手話を通して活動することで、被爆ろう者の存在を知ってもらう機会となり、手話の啓発もできた。また聞こえない人にも手話での情報保障ができた。参加者から、「被爆ろう者のことを知ることができてよかった」などの感想があった。</p> <p>③⑤ 手話通訳者は腕を上げ、話者の話の速さに合わせて手話動作を続ける。話が相手任せであり、無理な姿勢を続けるため、職業病として頸肩腕(ケイケンワン)障害になる可能性が高い。これを予防するため体の正しい知識と運動方法を学ぶ必要がある。参加者からは、学んだ運動を日常生活に取り入れたいなどの感想があった。聞こえない人の参加もあり情報保障として手話通訳をつけ、共に学ぶことができた。</p> <p>③⑤⑦⑨ 聴覚に障害のある人への情報保障のため、手話通訳技術の向上に努め、継続的に学び続ける必要がある。同じ目的を持つ人が集まり研鑽し合える場となった。</p> <p>⑧ 断捨離を学ぶことは部屋が整うだけでなく、心も整えることができる。自分自身の生活や心と向き合う機会となった。聞こえない人の参加も多く、興味深い内容だったため質問も多数出た。</p>
<p>⑥ 目的の達成状況</p>	<p>(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など)</p> <p>実施した①～⑨全て満足度は100%。継続して開催してほしいと、大変好評を得た。しかし、手話及び聴覚障害者理解を継続して学ぶためのテキスト作成は未完了である。研修会を開催するにあたり、メンバー同士が協力し入念な事前学習に取り組み、終了後に達成感を感じることができた。ZOOMによるオンライン配信は、Wi-Fi状況や配信準備に不安もあったが、概ね成功した。最初は慣れていないため、会場参加者の発言の音声オンライン参加者には届かないことがあった。次の研修会ではマイクを使用しスムーズに進めることができた。オンライン配信をすることにより、遠方のため、また時間の都合で参加をあきらめていた人から、「参加できてよかった。」と喜びの声があった。YouTube動画配信では、自宅学習の場を提供することができた。「自分の都合のいい時に見ることができる。」「繰り返し学習することができる。」と好評だった。聞こえない人への情報保障として手話通訳をつけたことで、聞こえない人の参加もあり共に学習できた。コロナ感染拡大防止のため、部屋の定員が引き下げられおり、定員を超えた参加希望者を断らないといけない状況があったため、以後は広い部屋を確保するようにした。</p>
<p>⑦ 今後の課題・展望</p>	<p>(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など)</p> <p>どの研修会も1回で終わらずに、継続して開催することが大切だと考える。手話はすぐには身につくものではなく、奥が深いため、学び続ける必要がある。参加者が「今後も参加したい。」「手話をもっと習得したい。」と意欲を高め、手話学習を継続してもらえようような研修にするよう努めていきたい。また、手話通訳者の健康対策(頸肩腕障害予防等)についても研修を継続して実施し、啓発していきたい。</p> <p>まだ手話に出会っていない人対し、手話及び聴覚障害者理解を広めるため、テキスト作成は必要と考える。わかりやすく、かつ伝えたい内容を十分に盛り込んだテキストを作成し、継続して学べる環境を整えたい。そのためには内容を熟考する必要があり、時間を要する。</p> <p>平和や被爆体験伝承に関わる活動は今後も継続していく。今後は広島市以外の地域でも開催し、平和の大切さや被爆ろう者の体験伝承を広めていきたい。</p>

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公表しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①活動テーマ/名称	明田弘司写真集制作と出版記念写真展開催
②実施期間	2022年4月1日～2023年3月31日
③実施主体	(主催、共催、後援、連携した機関・団体など) 明田フォトプロジェクト
④内容	<p>(実施方法、活動地域や会場、対象者など)</p> <p>(項目①～④は、申請書の「内容」欄に記載したものと同一。項目ごとに実施の詳細を記載)</p> <p>①写真集の企画・制作、③デザイン・DTP依頼</p> <p>2022年末より、デザイナーに加わってもらい、制作作業が一気に進んだ。出版概要が決定しないと実行できない最終作業(印刷データ変換など)のみを残し、ほぼ完了できた。</p> <p>②出版社へのアプローチ・印刷会社の決定</p> <p>商業出版を目指し、在京大手出版社への持ち込みなどを考えていたが、夏場にかけてのコロナ流行期などでリスクのあるメンバーを伴っての県外への移動は難しく、苦戦した。その間、過去に明田作品の掲載依頼をいただいた出版社などを中心に、メールと電話で問い合わせを試みたが、「今年度は、昨年までのコロナの影響を引きずって予算が少なく、営業活動なども考えると、商業出版・自費出版ともに、次年度まで待つ方が得策」とのアドバイスが複数あり、昨年末の時点で年度内の出版は見送るべきという判断になった。 ⇒予算変更届で該当予算部分を削除</p> <p>④出版記念写真展⇒公民館などで巡回できるパネル展に変更(該当部分、予算変更届)</p> <p>「出版記念」としては開催できなかったが、問い合わせした出版関係者からの「写真展などで明田作品が話題になると、出版も企画しやすい」との意見も参考に、当初の計画にも記載していた「巡回可能なパネル展示」の実施に切り替えて、3月開催を目指し、年明けから本格的な準備に着手した。 ※参考資料:「国際平和文化都市の基(はじまり)」チラシ会場については、「公開審査会に代わる追加資料」のコメント欄にて運営委員の方から、「写真展の開催について、まずは無料の公共施設を使うなどの工夫が必要ではないか」とのご意見もいただいております、メンバーで協議した結果、当初想定「公益財団法人泉美術館」は候補から外し、昨年春に明田弘司写真展を企画・開催していただいた基町プロジェクト運営の「Unité」(使用料無料)とした。</p> <p>小さな会場で、簡易的なハレパネ展示も生きる環境ではあるが、メンバー内で「作家の作品展示として額装のスタイルは維持したい」という意見があり、手間と費用のかかる一般的な額装とのハイブリッド案として、ハレパネをはめ込むことで作品の入れ替えを容易にし、軽量で移動も楽な手づくりの「木製パネル」を考案。次年度以降も、これらを活用しながら、公民館などで巡回開催できる環境を整える方向で準備を進めた。</p>

<p>⑤実施効果</p>	<p>(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など) 次項目の⑥目的の達成状況にも詳しく記載するが、 会場「Unité」を運営する基町プロジェクトで4月から休業日やスタッフの体制が変更となったことにより、開催が1カ月延期されて、「4/21～5/21 開催」となったため、実施効果は5月の成果発表会にて、改めて報告させていただきたい。 ただし、現在までに展示内容を見てもらった関係者からは、大変いい評価や反応をいただいております、反響が期待できる。 G7サミットの時期とも重なり、広島市民の皆さんにも、現在、変化の真ただち中にある基町の「文化のまち」しての成り立ちと、「国際平和文化都市ひろしま」の始まりについて、あらためて知っていただく機会になればと願っている。 加えて、展示会の反響を写真集出版の契機にもつなげていきたい。</p>
<p>⑥目的の達成状況</p>	<p>(当初の目的をどの程度達成できたか。また、成功した点、失敗した点、実施上特に工夫した点など) 「写真集制作」については、予算を活用してデザイナーに加わってもらうことにより、大幅に作業効率がアップして目的をほぼ達成できた。ただし、最終の出版概要決定には至らなかったため、引き続きアプローチを続けたい。 また、巡回可能なパネルを活用した写真展「国際平和文化都市の基(はじまり)」の実施については、会場「Unité」の空き状況から、3月後半～4月初旬の1カ月弱を開催期間に想定し準備していたが、2月に入って管理する基町プロジェクトより「4月から休業日の変更(週2⇒週3休み)やスタッフの入れ替えなど、体制変更の可能性が高まった」との報告があり、特に「休業日」が会期期間途中から変わるとなると、チラシなど広報活動で告知が複雑になるため、体制の整う4月中旬以降に会期変更となった。 ※設営・開催以外の準備は、3月中に完了済み</p>
<p>⑦今後の課題・展望</p>	<p>(上記の活動の実施により判明した課題、今後実施したい追加活動など) この春より、感染状況の落ち着きやマスク着用の緩和で、生活面は元に戻つつあるが、経済的にはコロナの影響や世界情勢の不安定化もあり、大手・中小を問わず出版業界では、予算面で未だ厳しい状況が続いている。一方で、ワークショップといったイベント開催はしやすくなったので、諦めず、明田作品の存在が広く知られ、市民のみなさんに写真資料の価値が伝わるよう活動をつづけて、写真集出版の契機にもしていきたい。 次年度以降は、今回考案・作成した「ハレパネはめ込み式 木製パネル」を積極的に活用し、公民館などでの巡回開催や「ワークショップによる市民参加型の写真展」(第21回助成事業に応募)を、明田作品に写る市内各所(南区仁保、中区竹屋、西区古江など各地区を想定して計画中)で開催していきたいと、今からワクワクしている。公民館などと連携し、当時を知る方々の参加も促して、お話を伺えれば、明田作品データベースにも反映させて広島市寄託「明田弘司写真資料」の価値を、さらに高められると期待している。 そして、明田資料に関わらず写真資料の価値が広まることで、将来的には広島市に「写真博物館」など、専門の資料館が整備される契機にもつなげていきたい。 ★この2年間、ふむふむの団体育成助成部門、まちづくり活動発展助成部門に応募させていただいたことで、2年前には「こんなことをやりたい」と思っていたにもすぐに実行に移せなかった環境が、少しずつ「自分たちで出来るかも」と動き出せるようになった。「活動の発展」を実感している。これを広島のまちに還元できるよう、続けていきたい。</p>

注意：助成事業活動報告書は、団体の交流や連携、情報交換を積極的に進めるため公表しますので、個人が特定できる情報（個人情報）は一切記入しないでください。

(1) 活動報告

①活動テーマ/名称	団地の法面を彩る会
②実施期間	2022年 4月 / 日 ~ 2023年 3月 31日
③実施主体	<p>(主催、共催、後援、連携した機関・団体など)</p> <p>地域住民の有志によるグループ</p>
④内容	<p>(実施方法、活動地域や会場、対象者など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●長年の自治会活動を通じて知り合った花好きの「お隣さん」が集まって始まった活動であり、会の規則が決まっているわけではなく、実体としては緩やかな仲良しグループとして維持されている。 ●高陽A団地の一角にある活動の空間は帯状の細長い平地と、その下段にはサッカー場がすっぽり入るほどの30度の法面が広がり、見晴らしの良い立地に恵まれている。花を植える平地は今のところ十分にあり、参加者が増えても対応に困ることはないと思う。斜面の方は電動刈り払い機を使って男手で行っているが、年に1回程度の手入れでは瞬く間にジャングル化する難所である。担い手は立派な老人なので、ある種の精神修養の向きがある。 ●四季折々の花壇は住民だけでなく散歩する人々に愛され、メンバーの大きな励みになっていることは言うまでもない。「どうぞお持ち帰りください」と不定期だが花立てに切り花を展示して提供したのも好評を得た。また、薩摩芋を植えて、子ども対象の「芋掘り&焼き芋大会」を開催したことはこの会に新しい活路を開くことになった。昨年度の大会が大成功だったことから、今年は年配者対象の「芋煮会」をやったらどうかという声が上がって実施したところ、昨年より倍の人が集まり大成功。これにより新しい展望が開けたという次第。

<p>⑤実施効果</p>	<p>(広島市のまちづくりに、どのような成果・効果があったか。また、対象者等の反響など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●こうした事情から、これからは会の活動の一部を自治会の傘下に置き、来年度からはイベントの開催費は自治会の負担で行うことが決まった。しかし、こうした事情とは別に「広島市まちづくり活動支援基金」の2年にわたるご支援により、花づくりの環境が立派に整い持続可能な会に成長した。 ●このことから来年度は基金の申請は控えることとし、これまでのご支援に深く感謝の意を表しますとともに、市民活動の輪が益々発展することを祈念いたします。
<p>⑥目的の達成状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●花づくりをすることで近所付き合いの輪が広がり、地域のコミュニケーションづくりに役立つことは確かだと思う。用地を確保して花壇を作るまでもなく、家々の塀や玄関口を彩るだけでも地域を挙げて取り組みれば、大げさでないまちづくりになる。こうした営みをイベント化する手立てもあると思われる。 ●お陰様で当初の目的は達成できた。成功した点は、栽培の技法がメンバーの交流で高まったこと。その一つが育苗の方法を取得したことで、種や苗を購入しなくても多種多様な花木を育てることができるようになった。要するに花を植えたら採種するまで育てることを学んだわけである。
<p>⑦今後の課題・展望</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●「芋掘り&焼き芋大会」の大成功と課題。サツマイモのような作物を植えると「公共用地を使って私腹を肥やす」という風景になるという問題がある。後述するが実際にそう見られることが分かっていたので、栽培現場には大きめの立て札に「子ども会ご用達 サツマイモ 秋の芋掘り&焼き芋大会で利用予定」と書いた。広報効果があり直に批判の声をかける通行人はなかった。実は以下のような体験があったからである。 ●筆者の家の近くに大きな通りに出る交差点があり、四つ角の一つが何も植わっていない平地になっている。元は低木の植栽になっていたが、車では右側の視界が悪く交通事故が発生したため伐採されて平地になった。目測で10平方メートルほど。ここは何もしないでおくとも背の高い雑草が茂り相変わらず視界を遮っている。そこで我が会でここを耕して花を植えよう。小型の耕運機を入れて作業していると、向かいの地区から年輩女性がやってきて、「あんた、なんか植えようとしとるんじやろうが、自分のもんにするんじやろう？ 県知事か市長の許可をもらうたんね！？」と、いきなり一方的に捲し立てる。一通り聞いてから「わしの話も聞いてくださいや。こっちにも事情があるんじやけえ！」と声高に返したので、ご婦人は何かブツブツ言いながら急ぎ足で去って行く。「チューリップを植えよう思うとるんですわい。」と答えるチャンスは去った。現在、ここには赤白黄色の花が咲いている。 どの花みても奇麗だな